

施策 No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	農林課	主管課長名	栗山 和三
4-1	施策名	農林業の振興	関係課	農業委員会、商工観光課、生活環境課、給食センター、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	農業者 担い手が育成されて、農業が活発に営まれている。	①販売農家戸数	見込値	人		1,100	1,080	1,060	1,040	1,020
実績値						1,109				
見込値										
						実績値				
②市内の農業所得総額			見込値	千円			410,000.0	415,000.0	420,000.0	425,000.0
		実績値					409,788.0			
		見込値				251.0	251.0	251.0	251.0	220.0
						実績値	248.0			
		見込値	a			4,245.8	4,200.6	4,155.4	4,110.2	4,065.0
実績値						5,003.0				
見込値	ha			10	10	10	10	10		
				実績値	1					
見込値	頭			500	500	500	500	500		
				実績値	581					
成果指標設定の考え方	農業が活発になるためには、地域農業の担い手である認定農業者の増加に加え、農業従事者の所得向上が不可欠である。また、それらを満たす条件として、耕作放棄地の減少や有害鳥獣の駆除などの農村環境の整備が必要である。									
成果指標の把握方法と算定式等	①「市内の農業所得総額」－税務課の課税データ ②「認定農業者数」－農林課所管の認定農業者名簿 ③「耕作放棄地面積」－農業委員会所管の耕作放棄地調査表 ④「山林整備面積」－農林課所管の森林整備事業実施面積 ⑤「有害鳥獣捕獲頭数」－農林課所管の有害捕獲計画									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①農業所得については、令和3年度410,719千円、令和4年度409,788千円、と減少している。原因としては、天候不順等の影響により米の質が低下し、価格が下落したことにより収入が減少したと思われる。 ②認定農業者数は、令和3年度は246人、令和4年度は248人、と2人増加した。これは、認定農業者の離農よりも認定農業者の認定が増加した為。また、認定農業者一人当たりの集積面積が増えている状況にあり、集積率は令和2年度が51.8%に対し、令和3年度が54.0%、令和4年度59.0%と毎年増加している。 ③耕作放棄地については、令和4年度は5,003aと前年度に比べ179a減少している。 ④山林整備面積については、令和3年度8.4ha、令和4年度1.0haで7.4ha減少している。令和3年度で身近なみどり整備推進事業が廃止となり、令和4年度は森林環境増進税を活用した森林整備を行ったが、事業に対する認知が低く要望が少なかったことが要因と思われる。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、令和3年度405頭、令和4年度581頭で176頭増加している。		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①市内の農業所得総額は、目標値410,000千円に対し、409,788千円と目標値を下回った。 ②認定農業者数は、令和4年度目標値240人に対し248人と上回った。 ③耕作放棄地面積は、令和4年度目標値4,245.8aに対し5,003aと、目標達成には至らなかった。 ④森林整備の要望による事業であり、令和4年度目標値10.0haに対して1haと目標値を下回った。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、令和4年度目標値である500頭に対して581頭と目標値を上回った。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 ①人・農地プラン事業 高齢化や農業の担い手不足等が心配される中、地域内の話し合いに基づき、将来的に当該地域の農業の中心的な役割を果たす農業者や農業の在り方などを明確化することができた。 ②農業経営支援事業 認定農業者等の担い手に対し、必要な農業機械やパイプハウス等の資材費補助を行い、経営の支援を行った。 ③儲かる産地支援事業 ICTや高性能機械など低コストで高品質な農産物が生産できる仕組の導入を進め、収益性の高い農業経営を実践する担い手の育成支援を行うことができた。	認定農業者は、減少傾向にあるが、量から質への転換し、生産性の向上や各種助成制度を利用して、効率的な農業経営の確立を図る。 担い手の高齢化については、新規就農者を確保し、地域農業を担ってもらうために、段階的な支援を実施していく。 耕作放棄地については、農業委員及び農地利用最適化推進委員による実態把握調査を行い、また補助事業等で耕作放棄地の解消を図る。 有害鳥獣対策事業のインシジョン捕獲の担い手の確保及び育成を推進していく。